

第36号

発行 丸橋歯科「良い歯の会」
発行所 群馬県高崎市栄町21-1
TEL 027-323-9524
FAX 027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

医・農・智

破戒を 生む
偽り 欲望 怒り
治癒を 生む
智愛 信頼
すべてを 無に 還す
巨大な 溶鉱炉
大なる ホメオスタシス
自然との 調和への道
医・農 智
守るべき
掛け替えのない
いのち (仁志)

「良い歯の会」機関紙

いのち

全人歯科が目指してきたもの
—現在と展望—

丸橋全人歯科 院長 辻本仁志

本質を見る目を持つ

本質を外れ、世間の本流が形成されることはよくあります。戦後復興は短期間のうちに、計画的に進み、十年で驚くほど完成しました。一方で、未曾有の大災害から五年、復興は半分は遠く及ばないのが現状です。我々の税金から25年間、復興特別所得税が徴収されますが、そのすべてが有効に、復興のために使われているのか、疑問を感じます。被災地復興支援資金が全く関係のないことに流用され返還を求められたというニュースは、氷山の一角と思われれます。強力なリーダーシップと双方向的な話し合いにより復興を計れば、そして復興に携わる人間が「あるべき本質」を強く意識すれば、もっと効率よく事は進むはずで。被災者の方々が「家を再建する予定であったが、資材が高騰して難しい。」と困窮する様子に、目先の卑俗な利益や人間関係により形成される俗世の本流が目につきます。

治療に大切な全人医療観

今の歯科界には全人的に病気をとらえる視点がありません。学会でも局所の細かな治療技術を論議することに終始し、治療が身心に及ぼす影響についての研究は、皆無に等しい状況です。全人的な視点で、疑問を持ちつつ、観察、比較しながら医療に取り組んでいなければ、歯で起こる奇跡とも言えるべき現象は決して見えてきません。歯が引き起こす全体像を念頭に置きつつ、技術を駆使できないために、治療自体が失敗に終わっている例は多くみられます。

全人医療をさらに発展させる

現在、全人歯科には20年以上の経験を持つベテランのドクターが多く、総合力だけでなく、各分野の専門医はかなりの力量を持っており、チーム医療を行っています。これにより、かなり難しい例でも、来院される患者さんすべてに適切に対応できる医療力を蓄積しています。そして、丸橋先生が治療のため確立した、当院の食の概念は、全人医療のもう一つの柱です。食は個々の患者さんの体の細胞を活性化し、治る力や免疫力を上げ、良好な治療の経過や予後のため不可欠です。しかしながら、これだけではありません。いろいろな要因で左右される我々の体の健康、その全体像をとらえながら、全人歯科医療をさらに体系化し、治療に取り入れ、患者さんに還元してゆくようにしたいと思っています。



たった一本の歯が体に影響を及ぼす例。一本のインプラント(矢印)で身体能力が全く代わってしまう。

「良い歯の会」が残してきた実績

丸橋全人歯科 副院長 海老澤博

当院が毎月第二土曜日に開催している「良い歯の会」は、昨年35周年を迎えました。この間、全国各地から延べ約6万5千人の方々が参加し、ともに多くを学び、実績を残してきました。

「良い歯の会」は、単なる歯の健康教室とは明らかに一線を画している。「健やかに生きる」ということは何なのか?という壮大な問いかけに、私たち自身も参加者の方たちとともに探究してきました。そこで多くの知見や気づきを得、歯の健康はもとより、心身の健康についての洞察を深め、食や環境問題、さらには精神の持ちように至るまで、独自の提言を行ってきました。その原点にあるものは、まさに「全人的医学観」であると言えます。

「良い歯の会」では、虫歯や歯周病、歯列不正、不良治療などに端を発した歯の不具合や咬み合わせ不良と心身の不調についても、提言を行ってきました。歯を失うと、咬めないとか審美性に問題が生じるだけでなく、さまざまな全身的な問題を抱えるようになり、例えば、残存歯数が減ると認知症になりやすくなったり、転倒するリスクが増えることが知られており、医科医療費が増えることが明らかに。歯を原因とする口腔内の慢性炎症は、口腔内細菌やその毒素が身体の遠隔臓器に異常をもたらす病巣感染を引き起こします。一方で、歯科検診を定期的に受け、歯のクリーニング等の予防処置を受けることで、歯の喪失を防ぐことができることも明らかになっています。歯の疾患は、多くが予防可能なものであり、決して予防に勝る治療はありません。病める人は健康に。健康な人はもっと健康に。そして老いてますます健やかに。「良い歯の会」を通して、今後また皆さんの健康家族が育まれていくことが、私たちの願いでもあります。社会的意義でもありと感じています。「良い歯の会」へのたくさんの方のご参加をお待ちしています。



「良い歯の会」に親子で長年参加し、予防をよく理解し実践してきた青年の口腔内。虫歯や歯周病は全くなく、美しい歯列になった。

35周年記念講演会を終え

「良い歯の会」を振り返る

医療法人 社団耕生会 副理事長 亀井 琢正



高崎講演にて大塚眞先生

昨年は、丸橋歯科にとつて大きな節目の年になりました。当院の活動のひとつで、他院にはない独自性と歴史を持つ「良い歯の会」が35周年を迎え、それを記念する一連の事業を展開しました。

「良い歯の会」は1981年7月11日に全人歯科へ移転する前の現丸橋連雀町歯科の3階研修室にて、記念すべき第一回「歯槽膿漏を予防しよう1」が19名の参加者とともに幕を開けました。また翌年の1982年9月に当機関紙「いのち」第一号が発行されました。同年9月22日には、横浜国立大学教授、宮脇昭先生による「生存の条件」と題した特別講演を群馬音楽センターで超満員の中開催し、会発足当初より活発な活動を行ってきました。そして1984年10月には外部講演も含めた参加者が1万名を突破し、「良い歯の会」の評判を聞きつけ、各地で講演依頼が殺到しました。丸橋先生は休日返上で、出張公演を行っていました。「良い歯の会」は単なる健康教室ではない点、他にまねのできないほど長い年、多くの方に支持された理由と感じています。それは、食や生活習慣を通じて人間の生き方という哲学を、現代社会の問題と照らし合わせて、世に問うてきたからだと思えます。

「良い歯の会」東京へ そして35周年

多くの支持を集めていた「良い歯の会」を東京でも聞きたい、知り合いたい、聞かせてあげたいという声にお応えし、2005年の秋からは年に一度、東京で特別講演を毎年開催するようにになりました。東京特別講演の第一回は神保町の学士会館で行わ

れ、会場に溢れるほどご参加いただき、これを機にさらに活動の範囲が広がりました。

そして、昨年は会の活動の一区切りとして2つの講演会を中心とした35周年記念事業を展開しました。始めに、この会の理念を深くご理解いただいている会の参加者を中心とした「実行委員会」を発足させ、講演会の告知に50名以上の方にお手伝いをいただきました。

皆様の温かいご支援のもと、9月の高崎文化会館、10月には御茶ノ水ソランテールで特別講演会が行われ、2会場の合計で800名以上の参加者を数え大盛況のうちに終わることができました。

両大会とも丸橋理事長より「良い歯の会」活動35周年の活動の総括として「健やかな壮老年を創る食と歯」と題した講演を頂き、特別講演は元長野県真田町教育長の丸橋眞先生より「未来の子供を育てる食」と題して話し頂きました。

大塚先生は、教育者の立場から教育現場の荒廃は食の荒廃にある、と早くから気づき、周りの様々な圧力にもめげず、信念をもって行動されました。その軌跡をお話しいただき、参加者の多くの関心を寄せていただきました。先生は、学校給食から家庭まで学生をとりまく食の改善に取り組み、それにより、見事に学生の心を蘇らせ、関係の方々にも食育の重要性を気付かせた、実行する教育者でした。

演者の選定をはじめ、講演会の準備期間は開催の1年以上前から行っています。今回の大塚先生は、我々の活動の趣旨にこれ以上の適任者はいないと感じるほどの方でした。我々も講演に感激し、来場者も改めて食育の大切さ痛感されたと思います。また、当院従業員も、このような活動をする中でいろいろなことを学び、また結束の絆が深まるということも大きな収穫の一つです。来場者の方々も、日頃とは違うスタッフの顔に、良い意味で驚かれたのでは、と思います。

また、今回の記念事業に合わせて

農文協より「心と身体の病と闘う、「良い歯の会」35年の軌跡」を丸橋理事長が出版して花を添えました。最後の事業として11月に高崎にて「実行委員会」の方々との記念講演と懇親会を行い、すべての企画が終了しました。

「良い歯の会」という名の医療運動

他の歯科医院でも健康教室を立ち上げて例は数多くあります。しかしこれほど長期に開催され、動員数も延べ6万5千人以上を誇る会は他にありません。これは単に健康教室の狭い枠組みではなく、人生観や哲学、ひいては医療運動へと活動範囲を広げていることに尽きると思えます。時代を見据えた本物の健康観を参加者と絶えず考えてきた結果だと思えます。回を重ねることに益々成熟していくのがこの会の特徴であり、これからは皆様が本当の健康に導く発信を心がけて参ります。

最後になりましたが、開催に際しまして「実行委員会」の方々に、紙面をお借りして改めてご支援感謝申し上げます。また、これからも末永く「良い歯の会」の活動を皆様に見守っていただきたいと思います。

35年のお力添えに感謝

「良い歯の会」は三十五年間、多くの方と知り合い、支えられてきました。観音山での農業空中散布の中止を求めて共に闘った「自然といのちを守る県民会議」の皆さん、食の大切さを教えてくれた有機農家や酪農・自然食に携わる方々、権力を恐れず医療界の不正を正そうとされている方、丸橋歯科の治療を理解していただき歯で悩んでいるお知り合いに薦めて下さった方々、また丸橋先生の講演で共感や感銘を受けた方々など、多岐に亘る人達と知り合ってきた。その方々がまた知人や家族に紹介し、人と人との繋がりで大きくなり、「良い歯の会」は延べ参加者が六万五千人超と今日まで発展してきました。



幹事・海老澤先生の締め言葉で懇親会は盛況のうち終了

ときには、応援し合ったり、共鳴したりすることによってその関係は深く強くなってゆきます。高崎会場・東京会場と続いた三十五年記念事業でも多くの方々、イベントの成功に向けてご協力してくださいました。

二〇一五年十一月十四日(土)、これまでの感謝と、ご協力への労いの意を込めて、懇親会を開催しました。前半では丸橋先生が「良い歯の会」が35年追いかけてきたもの」という演題で特別講演を行いました。戦後の食文化の崩壊から始まった日本の文化の荒廃を嘆き、世界と拮抗し得る日本文化の再建が必要だと説き、それには一大衆として周りを批判し、それを広げることが必要だと思えます。その責任で行動する人間になることが大切であると訴えかけました。

「大衆になるな！自立した個人に立ち帰れ！」これは丸橋先生が「良い歯の会」で一貫して主張してきたテーマです。参加者の皆さんも初めて「良い歯の会」に参加し講演を聞いた時のことを思い出してくれたのではと思えます。

後半では食事しながらの懇親会を催し、懐かしい方々から最近知り合った方まで、多くの方々からお祝いの言葉をいただきました。会場のあちこちで参加者の方同士のお話が弾んでおり、笑い声が響いていました。ここでもまた人と人との繋がりが大きく変わったことを感じられました。

人の輪が「良い歯の会」を支え、多くの方を健康に導ける日々が今後も続いていくことを願っております。「良い歯の会」事務局 田島 吾朗

喜寿から米寿へ

研究所科学顧問 宮崎 隆雄 (東京都 76歳)

子供の頃から歯科通院に明けくれば、社会人になってからも、歯科クリニックや勤務先の歯科診療所に通う日々でした。選磨を過ぎてからは、義歯の応急処置を繰り返して、歯の劣化が進行するばかりでした。古希を迎えてからは、上部、下部の半分以上は歯根が欠如し、入れ歯に頼らざるをえなくなりました。総入れ歯にするか、インプラントにするかを悩んだすえ、とりあえず都心の2歯科大学でインプラント外来を受診しました。両大学とも医局員のおざなり

の診察で、これではインプラント治療を受けても良好な結果は得られないとあきらめていました。その頃、学会で丸橋歯科医院の治療相談と健康展が開催され、それに参加しました。次の週に高崎の全人歯科クリニックで、丸橋院長の初診を受けました。時間をかければ治療可との感触を得て、次の週より池袋(2年後は八王子)から、月2回程度の間隔で全人歯科に通うようになりました。第一の関門は、これまで拔牙後に長期間応急処置で放置していたために骨がやせていて、フィクスタ

を埋め込むには骨量が不足していることでした。そこで、辻本先生による人工骨移植しました。骨量を増やす治療から開始しました。しかし、私の場合には生来骨密度が低く、骨質も劣化していたために、人工骨が期待したように顎骨に固着しないことが判明し、総入れ歯にするか否かの岐路に立たされました。辻本先生や近隣の整形外科医と相談し、まず骨粗鬆症の治療を併行して実施することになりました。当時、新しい骨形成促進薬(テリパラチド)が保険認可になっており、毎日皮下注射を半年以上実施した結果、骨質が改善していることが判明したので、再度GBRを継続することになりました。その後上下左右で14本のフィクスタの埋没が可能になりました。半年後、亀井先生により人工歯の装着治療が完了しました。さらに、半年後には残っていた下部前面の8本の処置が終わり、4年に亘る高崎への通院が終りました。古希になって劣悪な口腔状態で暗澹としていたのが、喜寿を迎えて永年の悩みから解放されてQOL(生活の質)が一新され、公

私若くは頃歯の大切さ健康について深く考えず過ごしてしまいました。虫歯の詰め物が取れてもそのまま放置しやがて拔牙、その場しのぎの治療を繰り返した結果、何本かの歯を失い、歯茎の痛み、腫れ、出血、膿に悩まされるようになり、地元の歯科医院で治療を受けましたが、回復する兆しは見えませんでした。

ある日ふと立ち寄った書店で丸橋先生の著書「ほんとうは治る防げる歯槽膿漏」が目にとまりました。それは幸運な出会いでした。歯周病を治したい、その一心で平成八年九月丸橋歯科を受診しました。上の歯すべてを連結し、下の左右奥歯もブリッジで固定、一年後治療が終わる頃には今までの不快な症状も大分軽くなっていました。

長い期間検診を受けずに過ごした為、上顎の虫歯が進行して黒く変色し、支えになっていたはずの奥歯が抜け落ち、ブリッジが不安定になっ

てしまいました。平成二十六年四月再度受診。丸橋先生、辻本先生の診察の結果インプラントによる治療が決まりました。十一月七日、精密入念な準備のもと行われた手術が終了し、その日にすぐ固定式の仮歯が装着され、劇的な変化に戸惑うばかりでしたが、頬の内出血の痕が残りましたが十日程度で消え、痛み出血もほとんどなく翌日から食事でもできました。翌年八月、とても自然な歯が装着され治療が完了しました。

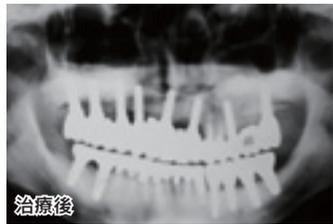


治療前 最終補綴物装着後の口腔内。下顎は当院の18年前の治療を問題なくそのまま利用できた。

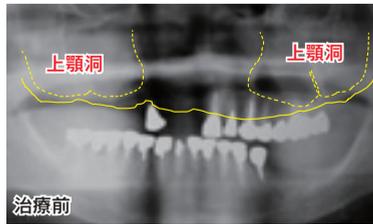


治療後 補綴物の土台になっていた歯が虫歯で拔牙となる。造骨同時インプラントガイド手術、なおかつ手術の日に仮歯を装着する治療を計画。

院に巡り会えてとても有難く感謝の気持ちで一杯です。



治療前 初診時のレントゲン。インプラントをするにも骨の空洞(上顎洞:破線内)や歯周病で骨が薄く不十分。インプラント周囲はほぼすべて造骨治療が必要な状況。



治療後 薬と骨のサプリメント等も併用しながら造骨治療を行い、驚くほど硬い骨が再生した。全人的な咬み合わせバランスを整え治療を終えた。

私ともに快適な生活を送れるようになりました。この状態を保持して、70代から80代を経て、快適な米寿を迎える自信が持てるようになりました。



緑豊かな伊豆・大仁農場にて

伊豆・大仁農場を訪れて

丸橋ファミリー歯科 院長

青木 博之

秋が深まる昨年の10月28日、辻本仁志先生、亀井琢正先生、海老澤博先生と共に自然農法見学のために、伊豆・大仁農場を訪れました。

伊豆・大仁農場は、MOA自然農法化学事業団が運営する自然農法の研究農場で、伊豆半島の北部の標高約300〜400mの山間部を切り開いて作られており、山林や施設を含むと100ヘクタールに及ぶ大きな農場です。

実は今から30年前の昭和61年（1986年）に「良い歯の会」は大仁農場を訪れ、自然農法を営みながら世界救世教の岡田茂吉氏が推奨した食事を実践する人達への健康調査を行いました。

この調査で得られた知見は、丸橋式の歯周病治療法確立のための大切な資料となりました。そしてその後展開される全人歯科医療への大切な道標だったとも言えます。当時の調査結果を簡単に紹介します。

調査は19歳から56歳までの17人について、視力、血圧などの全身症状、ブラッシング状態、虫歯や歯肉の状態、歯周ポケットなどの口腔内調査、現在の食事内容と食歴、生活史、信仰歴、仕事量などについて調査されました。

【食生活】主食は5分づき米（農場で精米）、うどん。副食は、野菜料理が中心で毎日必ず食べる。味噌汁は必ず食べる。動物性食品の肉は料理の中に使うといった形で、魚は週に2〜3回、卵は農場で飼っている

有精卵を3日に1回といった程度。植物性蛋白の煮豆や豆腐、納豆、油揚げなどの大豆製品を毎日食べ、海藻、小魚の料理も多い。農場で作っているもの以外の調味料など全ての食品は教団が経営するMOA商事で作られた安全なものを使っている。

【全身状態】血圧は全ての人が正常値で、視力は眼鏡使用者が2名、他は1.0以上。現代人に多く見られる肩こり、便秘、倦怠感といったものはなく、気力充実しており、肥満の人はいない。農場で働くようになり健康になった。

【口腔内】歯磨きは気を使って行っておらず、歯の汚れは認められるが、歯肉の腫れはなく、色調も正常。歯槽骨の吸収は認められない。今まで虫歯の治療をしたことがない人が3人いた。（いのち5号より）

大仁農場の皆さんは、農業や有機肥料を使わない生命力にあふれた食料を食べ、空気や水などの自然環境に恵まれ、気分よく汗を流しながら笑顔で活いきと働いていました。彼らは健康で、歯磨きがあまり上手じゃなく、歯は汚れてはいましたが、歯茎はピカピカ、綺麗なピンク色で、歯周病などはどこにもなかったのです。

今回の私たちの訪問は調査ではなく、自然農法についての学びのため、自然農法についての講義をしていただきました。土中に存在しているのちの源となる微生物の大切さ、生態系の循環の大切さを再認識することができました。さらに化学肥料を与えられ育った野菜は段々と抵抗力が落ち、病虫害に弱い状態になってしまふということ。自然農法の考え方は私達の歯周病治療の考え方と全く同じです。

山々に囲まれた緑豊かな大仁農場は30年前の写真と変わらず、丸橋先生はじめとする「良い歯の会」一行が訪れたところにタイムスリップしたような気分になりました。農場の見学もさせていただきました。虫食いのない綺麗で強い野菜、ふわふわの畑、芳しい土の匂いが印象的です。職員の方々の温かいもてなしを受け、ほんとうに沢山のことを学ばせていただきました。

丸橋先生が30年前に訪れたMOA農場を見学しました。我々の体に素直に入ってくる良い食べ物、自然の大循環に倣い、人為的なものを極力排除した、自然と一体化した中から生まれるものと感じました。治療も人為的な打撃を捨て、互いに本質を見つめる双方向的なやり取りの中から、我々は学び、感謝があり、そして、患者さんの喜びがある。寄稿頂いた手記を読みながらそう感じました。（辻本仁志）

良い歯の会にご参加ください

- 日 時 毎月第2土曜日 午後1時30分〜5時
- 場 所 丸橋全人歯科3階研修室
- 内 容 4回連続参加で1シリーズ

	内 容		開 催 月		
①	環境と人間の生き方を考える		1月	5月	9月
②	ムシバ予防を中心に家族を考える		2月	6月	10月
③	歯周病と生活習慣病を克服しよう		3月	7月	11月
④	退化病と闘う		4月	8月	12月

■定 員 60人(入場無料)お電話でご予約ください。☎027-323-9524
ご家族、お友達などお誘い合わせのうえ、ご参加ください。どなたでも参加できます。
試食会も行っています（本物食品と市販食品の食べ比べやおすすめメニュー紹介など）。
「良い歯の会」HP <http://yoihanokai.jp/>

理解という妙薬の力はすごい！

薬局で手に入らない、すごく効く妙薬があります。それは「理解」という妙薬です。良い歯の会で理解を深めた子供たちの写真をご覧ください。歯も体もピカピカな健康家族がたくさん育っています。

理解することは楽しく、心も充実し、無料で時間もかからず、痛くなくて効果絶大なのです。知らずに歯を悪くし、費用や時間をかけ、さらに悪くするのは愚かです。理解して予防する道こそ知性の道！良い歯の会にぜひお出かけください。



「良い歯の会」主宰 丸橋 賢
良い歯の会で学んだピカピカの歯のお兄さん(左)と妹さん(右)

編集後記

ハナミズキが今年は2週間ほど早く咲きました。道に連なる白やピンクの花を愛でながら、父母の来訪とともにゴールデンウィークに咲き誇っていた花が散ってしまふ悲哀を感じつつ、異常気象への不安を感じました。良い歯の会では30年以上前から自然との共存、このままでは人間の存在自体が脅かされることを訴えてきました。自然の怒りは淡々と現実のものになりつつあるのかもしれない。

丸橋先生が30年前に訪れたMOA農場を見学しました。我々の体に素直に入ってくる良い食べ物、自然の大循環に倣い、人為的なものを極力排除した、自然と一体化した中から生まれるものと感じました。治療も人為的な打撃を捨て、互いに本質を見つめる双方向的なやり取りの中から、我々は学び、感謝があり、そして、患者さんの喜びがある。寄稿頂いた手記を読みながらそう感じました。（辻本仁志）

長持ちし心身の調子も向上する 全人歯科医学がわかる本

心と身体 病と闘う

「良い歯の会」35年の軌跡
丸橋 賢 著
参加者6万5千人、機関紙「いのち」(医農書局) 農文協・1500円税

咬合と食のバランスを整えて現代人の心身の不調を再建する
新刊

歯 悪い治療の見分け方

治しても再発する治療二十年経て感謝される治療の違いが目撃されるロングセラー
丸橋 賢 著
18刷
農文協・1500円税

丸橋賢の本 新しい歯周病の治し方

歯周病が生活習慣病に分類された10年前から筆者が確立し実践してきた根本療法、食生活が乱れたままでは歯周病は治らない
丸橋 賢 著
18刷
農文協・1400円税

いのちを見つめて歯から治す

原因不明とされ難病に指定された治らない病気が約3000人
原因の無い病気はないと心を澄ませて見ると、次第に見えてくる。
丸橋 賢 著
18刷
農文協・1800円税

インプラントの実際

「噛める幸せ」を実感した幸せの声を多数掲載
入れ歯や歯周病、咬み合わせ不良のお困りの方をより高い全人的治療と導く術療法を事例豊富に紹介
丸橋 賢 著
18刷
農文協・1300円税

咬み合わせ不良の予防と治療

咬み合わせ不良の全身への影響から治療法予防するための食生活を
解説。全人医療の柱のひとつ、咬み合わせを知るための必携の本
丸橋 賢 著
18刷
農文協・1300円税

正しい「歯の矯正」の本

歯並びを正し、心身ともに健康になる新しい全人的
歯列矯正法。豊富な写真で正しい矯正の実際を解説
丸橋 賢 著
18刷
農文協・1400円税

みんなのための家庭の歯学

生え始めから、虫歯、歯周病治療、インプラント矯正、
審美、ホワイトニングまでわかりやすく解説
丸橋 賢 著
18刷
西村書店 1500円十税

三人作 丸橋 賢 著 春秋社

全人歯科革命 全人的治療への道

医師と患者が共有すべきほんとうの治療のすがた
全人医療の理論、思想の全貌
丸橋 賢 著
1800円十税

癒しの思想

病むいのちを癒すこと、それは病む社会
病む自然を癒すこと、癒すこと、癒すこと
丸橋 賢 著
1900円十税

絵本 よいちゃんは歯なし国へ

よいちゃんは歯なし国の旅を
丸橋 賢 著
1100円
楽しみながら子どもたちが歯の大切さに気づきます

